

大学生の学科間・学校間の 職業興味傾向の比較分析

戸 田 勝 也

1. はじめに

興味というのは活動の内容ということに焦点をあてて言われる言葉であって、ある職業を選択したり、その職業にとどまったり止めたりする問題と深い関係をもっている (D.E. スーパー、1969)

その職業興味を測定する道具として、職業興味検査が開発されている。ある種の職業興味検査が開発される時、職業興味の領域は仮に設定されている。それゆえに、ある職業に就いている人が特定の興味領域に当てはまるか、検証する必要がある。ここでは、その検証のことを妥当性検証と呼ぶことにする。

この種の職業興味検査の妥当性検証として、大工職について検証した例がある (戸田勝也、1983)。その場合は藤原式職業興味テストを使用しており、大工職にあたる職業興味領域で高い得点になることが検証されている。このような検証は時間がかかるわりに、当たり前のことを検証しているように思われているためか、わが国での検証事例は少ない。

そこで、大学レベルでの興味の妥当性を試みることにした。

ある人が生涯にわたって携わるであろう職業に就く前に、その職業に関連する教育訓練機関を選択する。例えば、生産現場の技能者になる者は職業訓練 (職業能力開発) の進路が選択される。また、大学レベルでは技術者、エンジニアを志向するものは工学部を選択するし、教師を志望する者は教育学部を選択する。

そして、それぞれの志向する進路に集まる学生集団としてその進路に関連する職業興味を示すものと考えられる。しかし、この点についてもわが国における検証は極めて少なく、それぞれの進路集団の職業興味の傾向性は必ずしも検証されていない。

そこで、本研究ではS大学校（職業能力開発総合大学校）の学生がどのような職業興味の傾向を示すかを中心にして、その他の大学と比較してどのような違いがあるか、などの妥当性を検証することを目的とする。

2. 調査方法

「教研式職業興味・志望診断検査」（藤原、河合、戸田、1975）を使用した。この検査は2部に別れている。第1部は、職業興味の領域を見ようとするものであり、第2部は職業志望を見ようとするものである。

なお、職業興味は職業活動を文章とした下位項目で「すきーきらい」を3段階で回答を求める。また、職業志望では職業名を下位項目として「なりたいーなりたくない」を5段階で回答するようになっている。

職業興味の領域は次の10領域である。

- （領域1）「社会・奉仕」は、主として個人的な接触、あるいは社会奉仕的な活動を含んでいる。
- （領域2）「対人・社会」は、医療的活動、教育的活動、さらには法律・経理等の公的資格が確立している職業活動を含んでいる。
- （領域3）「戸外・自然」は、農業・漁業などにおける戸外での職業活動が主となり、乗物の運転などを含む領域である。
- （領域4）「生産・技術」は工業分野における機械の操作など生産技能的な活動、および設計など技術的な活動を含む興味領域である。筋肉労働的で、男性的であり、日常生活に起きる問題を現実的に、実際に即して取り扱う活動に関する興味領域である。
- （領域5）「科学・研究」は、自然科学などの分野における研究・調査な

ど、思考的・抽象的な職業的な職業活動を含む興味領域である。

(領域6) 「事務・書記」は、一般的事務・書記など組織的ビジネスの末端の性質を含む職業活動を含む興味領域である。

(領域7) 「販売・対人」は、対人的な接触を主とするビジネス分野を含む興味領域である。いわゆるセールス活動で言語を用いて相手を説得する活動や商店での顧客の対応などの活動を含んでいる。

(領域8) 「文芸・言語」は、主に言語を用いて活動する職業を含む領域である。文学的な活動をはじめ、さまざまな情報伝達活動もこの領域に含まれる。

(領域9) 「文芸・美術」は、彫刻家、画家、工芸家など芸術的な活動と映画俳優など芸能的な活動を含む興味活動である。

(領域10) 「音楽」は、音楽的手段で自己表現する活動を含む興味領域である。

次に、職業志望の領域は、次の18領域から成り立っている。

「1、福祉・看護」、「2A、司法・経理」、「2B、医療」、「2C、教職」、「3A、第1次産業」、「3B、運輸・保安」、「4A、技能」、「4B、技術」、「5、学術・研究」、「6、事務」、「7A、商店」、「7B、個人サービス」、「7C、販売」、「8A、マスコミ」、「8B、文芸」、「9A、美術・工芸」、「9B、芸能」、「10、音楽」である。

調査対象者は、S大学校では、産業工学科37名、生産工学科62名、電気工学科22名、電子工学科92名、情報工学科114名、建築工学科52名、造形工学科31名、福祉工学科82名、総計人数489名である。主たる対象者は3年生で「職業科学」の講義を受講した学生が中心であるが、1年生、2年生のデータも若干含まれている。なお、女子学生は興味の傾向が若干違うので集計から除外している。データ収集期間は平成10年から平成14年までである。

また、A大学教育学部では、昭和61年から平成8年までの学生で、

「職業適性演習」の集中講義を受けた者であり、対象者総数は141名である。N大学経済学部は「職業指導」の授業を受けた学生であり、昭和59年から平成元年までの学生28名である。なお、M技術短期大学校（企業内訓練校）は1年生、2年生合わせて198名を対象とした。

3. 調査結果

3.1 各大学別の職業興味・志望について

まず、職業興味についてみると、S大学校はM技術短期大学校とほぼ同様の傾向を示している。つまり、「生産・技術」の興味領域で最も高く、S大学校が33.3、M短大が34.6となっている。次に高い得点を示す領域は「芸能・美術」でS大学校が29.9、M短大が29.7となっている。

A大学教育学部では、「社会・奉仕」が29.5、「対人・社会」が29.0と高くなっている。逆に「生産・技術」が最も低く、22.8となっている。

N大学経済学部では「文芸・言語」が32.0で最も高く、次に「社会・奉仕」が31.3となっている。

以上のように、S大学校、M短大では、職業興味領域で「生産・技術」が高く、「社会・奉仕」、「対人・社会」が低い傾向を示し、逆に、A大学教育学部、N大学経済学部では「社会・奉仕」、「対人・社会」が高く、「生産・技術」は低い得点を示す傾向があることがわかった。

次に、職業志望について検討してみよう。

「技能」領域では、S大学校が28.5、M短大が30.0なり、最も高い得点を示している。また、A大学教育学部で「教職」領域についてみると27.5で最も高い得点を示している。さらに、S大学校とA大学とを比較すると、A大学の得点が低い領域は「第1次産業」が12.3、「運輸」が15.0、「技能」が15.8、「技術」が10.0となり、その他の領域よりも低くなっている特徴がみられる。

3.2 S 大学の学科別の職業・志望について

S 大学は職業訓練指導員の養成を目的とする工学部系の大学である。ゆえに、職業興味・志望診断検査の仮説として、職業興味領域では「生産・技能」で高い得点になることが予想される。

調査の結果、全科を総合してみれば、「生産・技能」が高い平均得点になっている。これを学科別に検討すると「生産・技能」が一番高い学科は産業工学49.0、電気工学科32.4、電子工学科28.8、建築工学科33.7、福祉工学科30.9である。また、生産工学科では「科学・研究」が23.0で最も高く、「生産・技術」で22.8と2番目に高い得点となっている。同様に情報工学科では「科学・研究」が37.7で最も高く、「生産・技術」は36.9となっている。さらに、造形工学科では「生産・技術」が32.2で二番目に高い得点であり、最も高い領域は「芸能・美術」で39.6となっている。

このように、「生産・技術」の興味領域がすべての科で最高点を示すわけではないが、S 大学の学生は「生産・技術」の興味領域に高い得点を示すことが検証された。

次に、職業志望ではS 大学の学生は「技能」領域に高い得点を示すことが仮定される。

調査の結果、全体的にみて「技能」、「学術」で高い得点を示している。これを学科別にみると、産業工学科で「技能」が43.9と著しく高い得点となっている。また、「技能」領域が最も高い得点を示す学科は生産工学科が20.6、電気工学科が28.9、建築工学科が28.4、造形工学科が28.2、福祉工学科が24.7である。また、電子工学科では「学術・研究」が23.5で最も高く、「技能」領域は22.8で2番目に高い得点となっている。同様に、情報工学科でも「学術・研究」で32.8、「技能」は2番目に高い得点で27.8となっている。

以上のごとく、S 大学の学生は仮説の通り、職業志望で「技能」領

域に高い得点を示すことが検証された。

4. おわりに

職業興味・志望診断検査を用いて、職業能力開発総合大学校を中心に、その他の大学と比較しながら、職業興味、職業志望の傾向性を検証した。

その結果、職業能力開発総合大学校の学生はだまかに見て、職業興味では「生産・技能」領域の得点が高く、「社会・奉仕」、「対人・社会」領域の得点が低いことが検証された。また、職業志望では「技能」領域で高い得点を示すことが検証された。

(参考文献)

- D.E.スーパ 1980 職業生活の心理学。誠信書房。
藤原喜悦、河合芳文、戸田勝也 1975 教研式職業興味・志望診断検査の手引。日本図書文化協会。
戸田勝也 1983 大工の職業興味について。第5回日本進路指導学会論文集。

(とだ かつや 職業能力開発総合大学校)

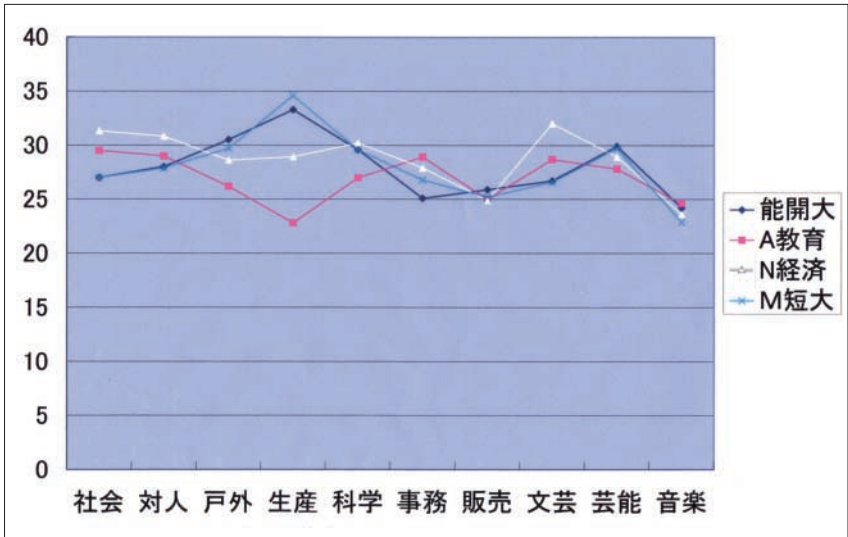


図1 大学別職業興味

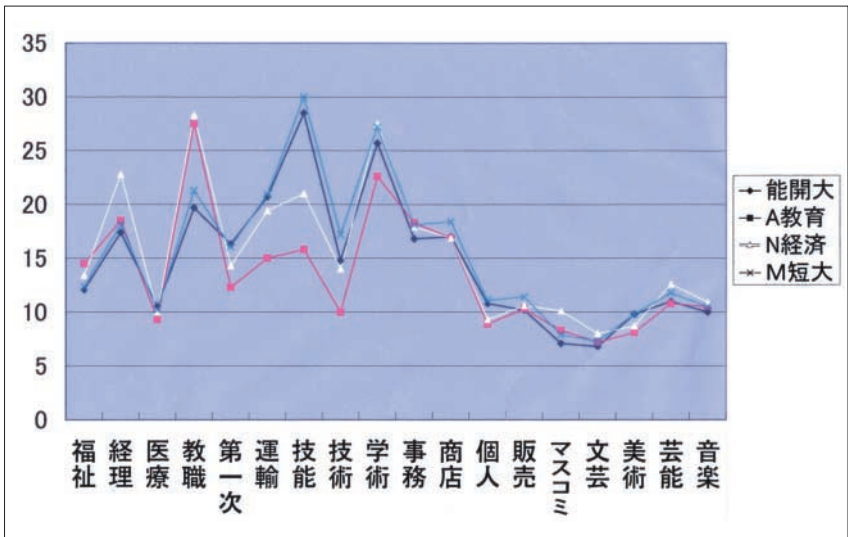


図2 大学別職業志望

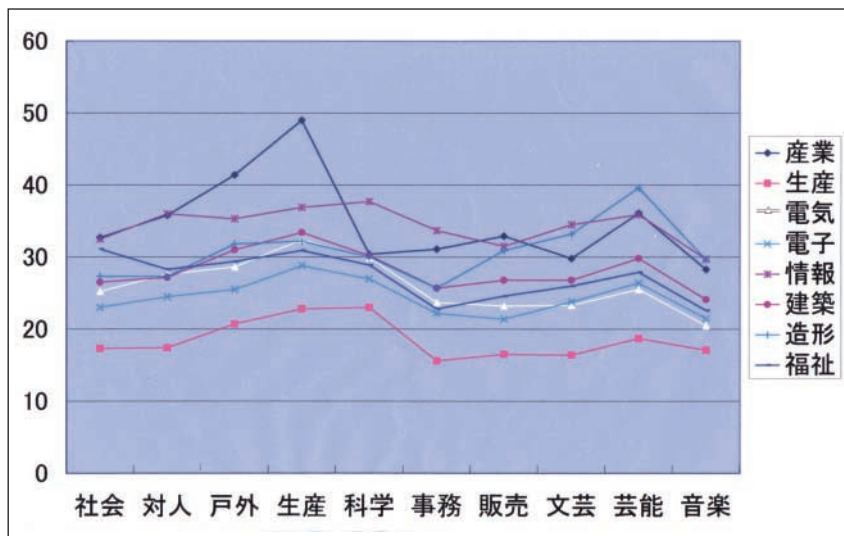


図3 S大学校学科別職業興味

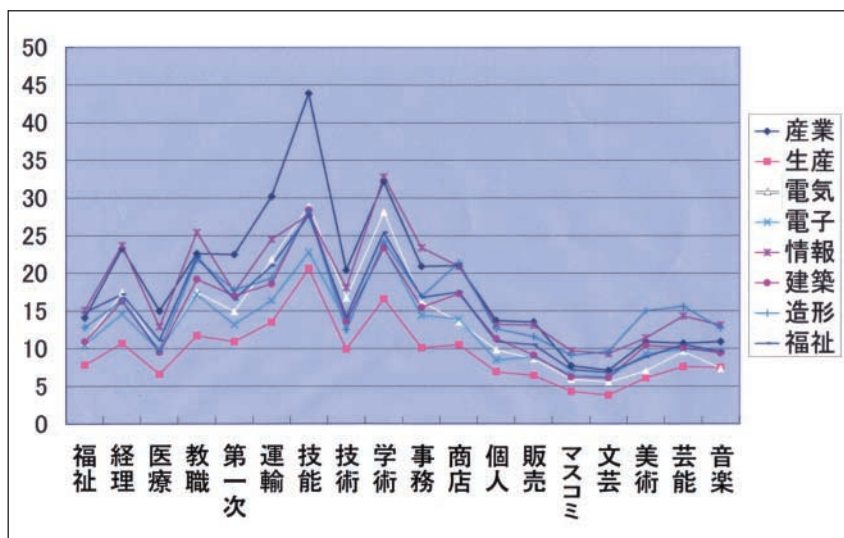


図4 S大学校学科別職業志望